

蒼穹ニユース

No. 4

七大戦総括号

平成22年8月9日発行



3年連続 1500m, 5000m の2冠を達成し、チームに勢いをもたらした主将小山俊之

～～～ 目 次 ～～～

1. 主将・監督挨拶
2. 七大戦総合成績
3. 七大戦詳細
4. 七大戦記録

主将挨拶

8月1日に愛知県の瑞穂陸上競技場にて七大戦が行われました。

男子は5年ぶりの優勝を狙った試合でしたが、阪大に遠く及ばず総合2位に終わりました。サポートに回った部員を含め、一人一人が七大戦を目標に精一杯取り組んでまいりました。4継の優勝を筆頭に七大戦当日もその成果を発揮できた選手も多くいましたが、流れに乗り切れず悔しい結果となり、優勝を勝ち取るための実力が足りなかったという事だと思っています。しかし、真武(2)の100m大会新、西村(1)の走幅跳での優勝を始め、収穫の多い試合となった事も確かです。

この夏、今回の悔しさを糧に全員がより一層の練習を重ね、東大戦では必ず優勝を勝ち取ります。

女子はフィールドの選手がいない中、高い団結力を見せ、目標にしていた3位にこそ届かない4位ではありましたが、素晴らしい戦いを展開しました。この経験をもとに東大戦5連覇に向けてさらなる努力を重ねてまいります。

蒼穹会の皆様には、今回も多くの方に会場で激励いただき本当にありがとうございました。今後とも変わらぬご支援、ご声援の程よろしく申し上げます。

京都大学陸上競技部主将

小山 俊之

監督挨拶

真夏の名古屋で行われた七大戦、我が京都大学は男子総合2位、女子総合4位という結果でありました。オープンを含め二日間、部員たちは競技・応援・サポートとそれぞれに精一杯取り組みましたが、事前に掲げていた男子総合優勝、女子総合3位という目標には大きく届きませんでした。

男子の部では、特に前半で期待していたとおりの得点が得られず、後半に多少巻き返したものの、勢いに乗りきれないまま、まさに大敗となりました。得点を期待されながら、満足いく結果を残すことができなかった選手たちも多くおりました。女子の部も、岩橋(2)の活躍による得点はありましたが、全体としては上位に遠く及びませんでした。

春の関西インカレ2部において3位ではありましたが、ほぼチームとしてベストパフォーマンスをすることができたことが自信につながった一方で、多少の油断・気の緩みを生んでしまったのかもしれない。試合直前・当日に上手く調整できなかったものがおり、また、チーム全体として冷静さを欠いた面があったとも感じています。今後は、部員一人一人がこの経験を糧にして、向上心と危機感、そして自分のやることに全力で取り組んでいく姿勢を持ち、努力していくことによって、次のステップにそれぞれが進んでいかなければなりません。

この部には力のある選手がいます。懸命に努力している選手も多くいます。京大陸上部がチームとして成長していく可能性は無限にあると思います。その可能性を無駄にせぬよう、私も監督として部員に対してできるかぎりのサポートをしていく所存です。

本大会、暑い中を本当に多くの先輩方に応援に来ていただいたにもかかわらず、ご期待に応えることができず申し訳ありません。今後、まずは夏の各対校戦をステップにして、秋の東大戦での男女アベック優勝を目指し、さらに部員一同精進していく所存です。どうか変わらぬ御支援・御声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督

平子 達也

七大戦総合成績

(8/1 瑞穂公園陸上競技場)

第 61 回全国七大学対校陸上競技大会 対校得点

1 位	大阪大学	115 点	(T 47 点 F 68 点)
2 位	京都大学	65.5 点	(T 39 点 F 26.5 点)
3 位	名古屋大学	64 点	(T 51 点 F 13 点)
4 位	東京大学	56 点	(T 40 点 F 16 点)
5 位	東北大学	53.5 点	(T 23 点 F 30.5 点)
6 位	北海道大学	28 点	(T 20 点 F 8 点)
7 位	九州大学	17 点	(T 11 点 F 6 点)

第 21 回全国七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1 位	大阪大学	28 点	(T 20 点 F 8 点)
2 位	名古屋大学	23 点	(T 16 点 F 7 点)
3 位	北海道大学	14 点	(T 5 点 F 9 点)
4 位	京都大学	6 点	(T 6 点 F 0 点)
5 位	東京大学	6 点	(T 0 点 F 6 点)
6 位	東北大学	2 点	(T 2 点 F 0 点)
7 位	九州大学	1 点	(T 1 点 F 0 点)

七大戦詳細

3000mSC 決勝

6位	不破 佑太 (2)	9. 40. 44
9位	山田 唯 (4)	9. 56. 07

七大戦最初の種目である3000mSCに出場したのは山田唯と不破の2選手。レースは序盤1000mまでは比較的スローな展開になり縦長の集団に。レースが動いたのは2000m付近。阪大の山根がスパートをかけると一気に集団全体のペースが上がる。不破は名大の平岡、東北の尾形との4位争いとなり惜しくも敗れるが、6位を死守して京大に最初の1点をもたらすチームに勢いを付けた。一方、山田唯は序盤は先頭を引っ張っていたが1000m過ぎで集団の後方までまわってしまう。そこから切り替えることが出来ず苦しいレースとなり、懸命にスパートするも入賞を逃し悔しい結果となってしまった。(荒木)

棒高跳 決勝

2位	田中 皓介 (3)	4m30
3位	小西 康晴 (4)	4m00
	秋元 一志 (3)	NM

先陣を切ったのは小西。4mまではなんなくクリア。続く4m10では、惜しい跳躍はあったものの、口惜しい結果に終わった。田中は4m20、30を順当にクリア。続く4m40を跳ぶことはできず、阪大の高橋が2回目で4m40を跳んだため優勝争いから惜しくも脱落してしまう。秋元は4m30から登場。走幅跳の後すぐに棒高跳にかけつけたため疲労があったのか、走りが切り替わらなかったのか、思うような跳躍ができず記録を残すことはできなかった。3人とも実力が出しきれず、個人としては残念な結果に終わったものの、結果として田中2位、小西3位と確実に得点は稼いでくれた。(堀田)

女子400m 予選

岩橋 優 (2)	2組1着通過	60. 63
加奈山憲代 (2)	1組1着通過	61. 56

1組目には加奈山が出場。他の選手のフライングがありプレッシャーのかかるスタートとなっただろうが、順調にスタートをきった。内側の選

手から迫られるシーンもあったが後半からの伸びがよく1着でフィニッシュした。続く2組目には岩橋が出場。1発でスタートが決まり順調な立ち上がりを見せた。途中、混戦となったがホームストレートでトップにたち、そのままフィニッシュ。最初の予選種目で2人とも1着通過と、良い流れをつくってくれた。決勝の走りにも期待したい。(万城)

400m 予選

萩生 翔大 (4)	3組3着	50. 52
山瀬 康平 (4)	2組7着	51. 93
長谷川 聡 (2)	1組7着	53. 16

男子短距離の先陣を切ったのは長谷川。前半カーブからバックストレートにかけては積極的なレースを見せたが、後半思うようについていけずに失速。ベストタイムからすると満足のできない結果となってしまった。山瀬は一番外側のレーンにも関わらずに最初から積極的に飛ばした。300m地点までは良いポジションを保っていたが、残り100mをスムーズに走る余力は残っていなかったのか、少し力みが見え、辛そうな展開となった。しかしあの積極性は男子短距離に勢いを与えただろう。萩生は1回目にフライングを取られたものの、2回目落ち着いたスタートを切った。速いピッチで気持ち良くバックストレート、第3コーナーを駆け抜け、しっかりと走りフィニッシュ。しかし今季初の49秒台にも決勝進出にも一步届かず、悔しい結果となってしまった。(森)

円盤投 決勝

4位	矢川 勝太 (3)	33m97
14位	川島 龍樹 (3)	26m82
16位	林 翔太 (3)	26m15

強い日差しが照りつける中、投擲最初の種目である円盤投が始まった。矢川は3投目に記録を伸ばしてベスト8に進出したが、4投目以降で記録を伸ばすことはできず1cm差で表彰台を逃す悔しい結果となってしまった。林はやはり肘の調子が思わしくなかったのか、1、3本目がフェールで2本目も記録を伸ばすことができなかった。川島は2本目に自己ベストを出したが、2人ともベスト8進出は叶わなかった。3人とも以降にまだ試合があるので、期待したい。(西田)

110mH 予選

前田 靖朋 (4)	1組4着	15.94(+0.8)	PB
大橋 正義 (3)	2組5着	16.13(-1.7)	PB
清水 宏幸 (2)	3組7着	16.52(+0.8)	PB

男子110mHには前田靖朋、大橋、清水の3人が出場した。まず1組目に出場した前田は勢いよくスタートを切ったが、6台目あたりからまわりに遅れをとり結果4着でのフィニッシュであった。しかしタイムは15"94と自己ベストで15秒台を出し、4回生の意地を見せてくれた。続いて2組目に出場した大橋はハードルの着地で体重が後ろにかかってしまい5着でのフィニッシュであった。最後の3組目には清水が出場した。清水は得意のハードリングで16"52と大きく自己ベストを更新し、これからの成長に大いに期待させる走りであった。(神谷)

女子100m 予選

釜谷美翔子 (1)	2組3着通過	13.00(+2.0)
増本 梨奈 (1)	1組6着	13.93(+0.8)

女子100mには1回生の2人、釜谷と増本が出場した。まず1組目には増本が登場。初の七大戦という緊張もあってか、奮闘むなしく6着に終わった。来年の七大戦ではぜひこの雪辱を果たしてほしい。2組目には釜谷が登場。恵まれた追い風とそれ以上に素晴らしい走りを披露して3着で決勝進出を決めた。(林真幸)

100m予選

眞武 俊輔 (2)	3組1着通過	10.76(+1.7)	PB
牧川 真央 (1)	1組2着通過	10.85(+0.6)	CB
山田 諒 (3)	2組7着	11.52(-0.4)	

男子100m予選には山田諒、眞武、牧川の3人が出場。気温35℃の中、好記録が続出する熱いレースとなった。1組目は牧川。抜群のスタートを切るとそのままスピードに乗り、見事2着で決勝進出。1着通過とはならなかったが後半の追い上げは決勝に期待を持たせるものであった。2組目には山田諒が出場。中盤あたりから離され後半追い上げたものの決勝進出とはならなかった。この悔しさをバネに4回生となる来年の七大戦でリベンジを果たしてもらいたい。3組目には眞武が出場。序盤から圧倒的なスピードで他を寄せ付けず、

後半からもそのスピードは落ちることなく大会新記録となる10"76でフィニッシュ。直後には喜びを爆発させるガッツポーズも飛び出し、スタンドを大いに湧かせてくれた。この走りで本人にも、そしてチームにも勢いがついたことは間違いない。(神野)

走幅跳 決勝

優勝	西村 優汰 (1)	7m45(+1.0)	CB
10位	秋元 一志 (3)	6m58(+1.8)	
20位	高棹 真介 (4)	5m37(+0.7)	

男子走幅跳には3人が出場した。最後の七大戦となる高棹は助走の調子は良かったものの、足が合わず苦戦し、悔しい結果となってしまった。秋元は1本目に勢いのある助走で板の手前から6m58を跳ぶが、その後は助走が乱れ記録を伸ばすことができず惜しくも決勝進出はならなかった。西村は始め、本来の調子ではないかのように思われた。しかし4回目の跳躍で東大の西田に抜かれるとインターハイチャンピオンのプライドに火がつき、5本目に7m45を跳んで圧勝し会場を沸かせた。七大戦4連覇の可能性は十分あり、これからの活躍が楽しみである。(巽)



1年目で優勝し七大戦4連覇への期待がかかる西村

1500m 決勝

優勝	小山 俊之 (4)	3. 54. 84
6 位	坂本 剛 (4)	4. 04. 11 PB
13 位	浅井 健介 (2)	4. 10. 80 PB

男子 1500m には小山、坂本、浅井の 3 人が出場。4 連覇を目指す小山は昨年同様スタート直後から先頭にたちレースを引っ張る。最後まで 1 度もトップを譲らず、ラスト 1 周でも圧倒的なスピードの差を見せつけ、最高のレース展開で見事 4 連覇を達成。坂本は序盤から得点を狙える位置に付け、熾烈な得点圏争いを繰り広げる。ラストで 5 位には少し差を開けられたものの、4 回生の意地を見せ自己ベストの走りでも 6 位を死守し、得点を勝ち取った。浅井は得点争いには絡めなかったものの最後まで諦めることなく粘り抜き、自己ベスト更新で次につながる走りをした。(山口)

砲丸投 決勝

9 位	矢川 勝太 (3)	9m73
17 位	高橋源一郎 (3)	8m04

試合開始の 9:30 からすでに気温が 34℃を越える猛暑となった七大戦。直前に円盤投の試技を終えた矢川、そして高橋が砲丸投に臨んだ。矢川は毎回 10m 近くの投擲をするも、納得のいくものではないのか、「ああ」と小さく声を漏らした。記録は 2 投目の 9m73 でベスト 8 にわずか届かず 9 位となった。一方高橋は投擲ごとに記録を伸ばすものの、やはり納得はいかなかったのか首を傾げていた。結果としては 8m04 で 17 位となった。2 人ともまだ種目が残っているのでこの悔しさをぶつけてほしい。(花岡)

女子 100m 決勝

6 位	釜谷美翔子 (1)	13. 21(-0. 7)
-----	-----------	---------------

予選で 13"00 を出し、決勝では 12 秒台を出して得点に絡むことが期待されたこのレース。決勝の緊張からか前半やや動きに固さがみられ、先頭から遅れをとってしまう。中間疾走では持ち直し、力強い走りを見せたが序盤の差を挽回することはできず 6 位でフィニッシュ。得点はできなかったが京大女子短距離の未来に期待をもてる走りであった。(藤澤)

100m 決勝

3 位	眞武 俊輔 (2)	10. 85(+1. 8)
6 位	牧川 真央 (1)	10. 92(+1. 8)

汗が滴り落ちる猛暑の中、一時心地よく吹く追い風に後押しされて、男子 100m 決勝が始まった。出場選手は眞武、牧川。両者とも予選では絶好調であった。大いなる期待の中、スタートの合図。眞武は後半型であるがスタートから激走。そして加速に上手く繋げて、いつもの持ち味である中間疾走。だがここで持ち味が生かし切れず、二人にかわされフィニッシュ。タイムは 10" 85 と好タイムであったが惜しくも 3 位であった。牧川はキレよくスタート。そのままの流れで軽やかに走った。しかし周りを圧倒する激走を披露することができず、6 位でフィニッシュ。来年はこの種目でぜひともワンツーを狙ってほしい。(塚原)



100m 予選で大会新記録を出した眞武

女子 800m 決勝

2 位	岩橋 優 (2)	2. 16. 82
7 位	福谷 彩織 (4)	2. 28. 89

気温が 35℃を超える猛暑の中で行われた女子 800m には福谷と岩橋が出場した。岩橋は序盤から先頭の名大の鈴木についていく。最後まで先頭に追いつくことはできなかったが、後続の選手を振り切りそのまま 2 位でフィニッシュ。来年はリベンジを果たしてくれるであろう。福谷は前半から中盤ほどのいい位置につけて上位を伺う展開。前の選手との差が少し開いていたためレース展開的には少し辛いものとなるが、最後まで粘ってぐらいついていって 7 位に入り健闘した。(宮原)

走高跳 決勝

7位	巳波 壮馬	(4)	1m80
10位	田中 皓介	(3)	1m75
10位	松室 堯之	(3)	1m75

非常にきつい日差しの中、競技は行われた。松室は1m70、75を1回でクリア。しかし1m80の1回目で足を痛めてしまい、残念ながらそこで棄権となってしまった。田中も1m70、75を1回でクリアしたが、1m80の壁に阻まれ、得点争いに絡むことが出来なかった。しかし、あと少しで跳べそうな場面が多く、来年に期待したい。巳波は1m75から始めた。1m75、80を危なげなく跳び、調子の良さをうかがわせた。だが、疲れが出たのか1m85を跳び、得点することは出来なかった。今年は1m85を跳べるかどうか、点数を取れるかどうかの、大体の境界線となったので、来年は京大の選手が1m85を跳び、さらには表彰台に上ることを期待したい。(木原)

800m 予選

大川 亮	(3)	2組1着通過	1.57.12
水元 惟暁	(2)	1組1着通過	1.58.92
横山 高広	(1)	3組5着	2.01.50

暑さも増してきた12:40、京大の大量得点が期待される男子800mの予選がスタートした。1組目、水元は終始いい位置取りを確保し見事1着で予選を通過した。2組目、ランキング2位の記録を持つ大川も前半から積極的に試合を引っ張り危なげないレース展開で難無く1着で予選通過。最終組の横山は果敢に前に出ようとするも不運にもポケットされてしまい、スローペースな展開に持ち味のスプリントを活かせず惜しくも予選敗退となってしまった。(水谷)

400mH 予選

大橋 正義	(3)	2組2着通過	56.16
清水 宏幸	(2)	3組4着	58.36 PB
田所 竜翔	(4)	1組6着	59.25

男子400mHは京大からは田所、大橋、清水が出場した。田所は1台目は綺麗に越えるも、2台目を逆足で跳んでしまい失速してしまう。しかし4回生の意地を見せ、シーズンベストを更新した。大橋は序盤からスピードに乗り、3着以下を大き

く引き離し2着で予選を通過した。清水は最初からとばす、気持ちの良いレースをする。5台目でミスしてしまうも、大幅な自己ベスト更新となった。(近藤勇太)

やり投 決勝

2位	林 翔太	(3)	57m88
5位	矢川 勝太	(3)	50m08
7位	川島 龍樹	(3)	48m51 PB

男子やり投には京大からは林、矢川、川島の3選手が出場した。優勝も期待されていた林は肘の故障もあり投げられる本数が限られるなかで2投目に58mに迫る好記録を出し、以降はパスしたものの見事2位を勝ち取った。投擲種目すべてに出場している矢川は2投目に50mを超える投擲を見せ5位入賞を果たした。そして川島は1投目に自己ベストを更新する投擲でベスト8に残り、4投目以降はパスするも7位に入った。(横山裕樹)

200m 予選

眞武 俊輔	(2)	1組2着通過	22.21(+1.4)
牧川 真央	(1)	3組3着	22.58(-0.2)
山田 諒	(3)	2組7着	23.64(+0.8)

100mの予選から2時間半後、決勝から1時間10分後という疲労を残したレース。眞武は終始力強い走りで見事先頭を我が物にしてゴールを割り、決勝への高いモチベーションを見せ付ける。山田は100mからの足の異常のためか後半のスパートがかからず決勝進出はならなかった。牧川は気持ちのよいスタートから積極的なレースを展開するもラストの踏ん張りがきかず、惜しくも決勝進出を逃してしまった。残すは4継の1本だけなので、そこで完全燃焼してもらいたい。(志波)

女子 3000m 決勝

10位	市塚 友香	(3)	11.40.46
13位	上田 容子	(3)	12.19.58

スタートとともに名大の鈴木が飛び出し、一方的なレースが繰り広げられる中、京大の2人は序盤から前方集団に離され厳しいレース展開となる。しかし、レース後半になり前方の集団から落伍した選手が出始めると、市塚はすかさず捉え、最後まで常に前をうかがう姿勢を持ち続けた。2

人とも入賞はできたなかったが、特に上田は練習を十分につめない中でも、2人とも最後の最後まで気迫のこもったレースを見せてくれた。(阿部)

女子砲丸投 決勝

8位 増本 梨奈 (1) 6m23 ♪
9位 三村 有葉 (1) 5m20 ♪

午後の照りつける日差しの中、女子砲丸投が行われた。今回、砲丸投初出場の増本と三村。三村は、よいしょー!の掛け声とともに投擲。1本目、2本目、3本目と本数を重ねるごとに記録を伸ばせた、と試合後三村は満足そうに語った。増本は初心者とは思えぬしっかりとした投擲をみせ、見事ベスト8に残った。試合後、もう少し飛ばしたかったと少し残念そうであったが、初の七大戦をしっかりと楽しめたようだ。(伊藤慶紗)

4×100mR 決勝

優勝 41.78

[前田靖朋-牧川真央-秋元一志-眞武俊輔]

前評判の高かった男子4×100mR。この日1番の期待が4人にかかる。号砲とともに1走の前田が飛び出すと絶妙のコーナリングでトップ集団につける。ここで2走牧川との絶妙なバトンパスで頭一つ抜け出すとそのまま牧川が差を一気に広げる。3走秋元も絶妙のバトンワークから得意のコーナーを駆けぬけ、この日100mで大会新記録を出している眞武に繋げる。眞武も疲労のかさむ中、懸命の走りで逃げ切り優勝。4人はゴールタイマーの前で笑顔をはじけさせた。(水上)

三段跳 決勝

9位 秋山 源 (5) 13m73(+0.2)
15位 飯村 大智 (2) 12m40(+1.3)
17位 高棹 真介 (4) 12m29(+3.5)

男子三段跳には、秋山、高棹、飯村が出場した。走幅跳からの連続出場となった高棹は果敢な跳躍を行うも、2度のファールもあり、悔しい結果となってしまった。飯村は足の故障が癒えておらず、1本にかけると言う宣言通り1本目から記録を残すも次をファール、3本目は跳ぶことができなかった。秋山は1本目から良い滑り出しを見せ、3本目にはベストに近い跳躍も見せたが僅かに及

ばず、エイトに残ることは叶わなかった。(四辻)

ハンマー投 決勝

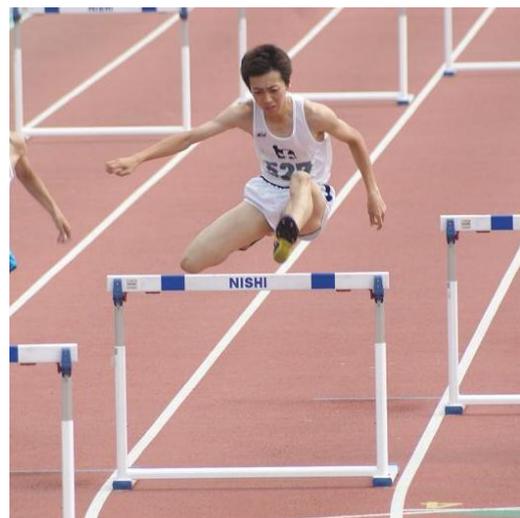
5位 矢川 勝太 (3) 33m73 PB
8位 高橋源一郎 (3) 30m12
川島 龍樹 (3) NM

連日続く猛暑の中、七大戦最後の投擲種目となる男子ハンマー投が行われた。自己ベスト更新の期待のかかる高橋だが、3回目の試技で30m12を投げベスト8に滑り込むも、その後記録を伸ばすことが出来ず8位に止まった。矢川は3回目の試技で自己ベストとなる33m66を投げベスト8に残ると、最終6投目で更にベストを更新する33m73を投げ、5位入賞を果たした。川島は3回の試技ともにバランスを崩しファールとなり、無念のNMとなった。(中東)

400mH 決勝

3位 大橋 正義 (3) 55.36 PB

地力のある大橋、予選を危なげなく通過し、決勝に望んだ。照りつける日差しもなくなり万全のコンディション。大橋は最初から積極的に飛ばし、常に表彰台圏内にいる走りを見せる。その勢いそのまま最後まで走りきり、見事自己ベストを更新し、3位入賞を果たす大金星を挙げた。本人は今できる一番のパフォーマンスと試合後語ったが、その目はすでに次の段階を見据えていた。(堀江)



自己ベストでこの種目表彰台に上った大橋

女子 400m 決勝

3位	岩橋 優 (2)	61.05
6位	加奈山憲代 (2)	62.39

午前中の日も陰り、風が気持ちよく感じる 15 時前、岩橋と加奈山が出場する女子 400m 決勝がスタートした。好スタートを決めた加奈山はバックストレートで選手をパスし、岩橋も順調に加速し次々と選手をパスしていく。岩橋は最終コーナーでも失速せず、ホームストレートに戻ってきた。最後に北大の山根と僅差で競り負け 2 位は逃したものの、3 位表彰台は獲得した。一方の加奈山は最終コーナーで動きが止まり、踏ん張りきることが出来ず 6 位という結果に終わってしまった。この借りは必ずや来年の七大戦で返してくれるであろう。(多田)

800m 決勝

2位	大川 亮 (3)	1.55.16
6位	水元 惟暁 (2)	1.58.52



昨年よりも順位を 1 つ上げ、2 位になった大川
来年こそは優勝を目指す

男子 800m 決勝には水元、大川の二人が出場した。スタートから大川は積極的に飛び出しトップにたつ。一方の水元は中盤の位置を保ち 200m 辺りから前に行く。1 周目は大川がスタートのスピードを保って 55 秒のかなり速いタイムでのトップ通過。水元はここで 4 位。大川は 700m 付近までトップだったが、ラストで後ろについてきていた阪大の山田のスパートに離され 2 位。水元は 2 周目に入り徐々に順位を落としてしまい、大

川と揃って表彰台に上ることはできなかった。しかし最後の直線で得点圏に滑り込む粘り強さを見せてくれた。(渡邊)

200m 決勝

7位	眞武 俊輔 (2)	22.29(+4.2)
----	-----------	-------------

100m での大会新記録でこれまでにないほど波に乗っている眞武。さらには 200m の予選でもベストを更新し、誰もが大きな期待を寄せる中で決勝の号砲が鳴った。勢いの良いスタートを切りコーナーで上手く加速するも、直線に入りフォームの固さが目立ち始める。最後は脚をつりそうになりながら 7 位でフィニッシュ。連戦の中、本当に良く頑張ってくれたが、やはり悔しい結果であった。残すは 4 継の 1 本だけなのですべてを出し切る走りをしてほしい。(宿利)

5000m 決勝

優勝	小山 俊之 (4)	15.08.32
3位	柿本 悠貴 (4)	15.16.06
12位	平井 幹 (1)	15.57.97

5000m には小山俊・柿本・平井の 3 人が出場した。レースはスローな立ち上がり。縦長の大きな集団を形成し京大の 3 選手は前方に位置どりをした。レースが動いたのは 3000 通過。東大の宮野が一気にペース UP。ここで小山は慌てず前に出、柿本もつく。だが平井はこれに対応できず後退してしまう。残り 3 周で再び宮野が上げるも小山、柿本は冷静に対応。ここから三つ巴となる。ラスト 550 で柿本がスパートストップに立つも、500 で宮野がさらに被せ、勝負はラスト一周へ。ここで小山が一気にギアチェンジ、そのまま後続を寄せ付けぬスパートで三年連続二冠達成。柿本はギリギリ離されるも必死に前を追い見事 3 位でゴール。平井は後退し苦しい走りになったとはいえ 15 分台は死守し持ち味の粘りは発揮した。(久好)

女子 4×100mR 決勝

4位	52.11
----	-------

【増本梨奈-釜谷美翔子-岩橋優-加奈山憲代】

女子の最後の種目となる 4 継には 1、2 回生のみの若いチームで出場。1 走の増本は少し出遅れてしまうが、2 走の釜谷が直線でまわりを追い上

げる。3 走の岩橋とのバトンパスでは一瞬ヒヤリとする場面もあったが、バトンがわたると粘りの走りで可能性を残す位置をキープし、アンカーの加奈山へ。必死に追い上げるも 3 位争いには食い込むことが出来なかったが、4 位は守り切り貴重な 1 点を獲得した。全員多種目出場という状況で疲れも心配されたが、それを感じさせない粘り強いレースを展開してくれた。今後このメンバーでリレーを走る機会も多くなるので、この経験を次に繋げてほしい。(高田)

4×400mR 決勝

7 位 3.23.97

[大橋正義-萩生翔大-長谷川聡-山瀬康平]

七大戦最終種目である 4×400mR は、序盤 1 走の大橋が今日 4 本目には見えない粘りの走りで 2 走の萩生につなぐ。混戦の中 3 位で抜け出した萩生は、ラストはさすがの強い走りで 2 位に浮上。3 走の長谷川は積極的に攻め、ラストで少し順位を下げるも 4 走の山瀬との見事なバトンパスで再び 3 位に。山瀬も前半から飛ばす積極的な走りで第 4 コーナーまで 3 位をキープするも、直線で他大学とのスパート合戦に敗れ、悔しくも最下位となってしまった。だがその攻めの姿勢は七大戦の最後を飾る素晴らしいものだった。(山崎)

七大戦男子記録

100m (+1.8)

1	山崎 雄大	名古屋大	10.79
2	西田 昂広	東京大	10.81
3	眞武 俊輔	京都大	10.85
4	信時 盛人	大阪大	10.88
5	大家賢志郎	大阪大	10.90
6	牧川 真央	京都大	10.92

200m (+4.2)

1	山崎 雄大	名古屋大	21.46
2	飯田 謙	北海道大	21.78
3	信時 盛人	大阪大	21.96
4	有村 孝	大阪大	21.96
5	水野 敦	名古屋大	22.08
6	鈴木 一輝	東北大	22.13

400m

1	山下 康平	九州大	49.23
2	大澤 渉	東京大	49.86
3	高林 佑輔	東北大	49.97
4	高橋 勇理	大阪大	49.98
5	三上兼太郎	北海道大	50.06
6	松田 裕樹	北海道大	50.63

800m

1	山田 佳祐	大阪大	1.54.13
2	大川 亮	京都大	1.55.16
3	井上 博人	名古屋大	1.56.14
4	渡邊 拓也	東京大	1.57.07
5	早川 慎一	名古屋大	1.57.83
6	水元 惟曉	京都大	1.58.52

1500m

1	小山 俊之	京都大	3.54.84
2	村西 研郎	名古屋大	3.57.56
3	濱田 洋平	名古屋大	3.58.56
4	酒井 健	大阪大	3.59.28
5	山根 裕樹	大阪大	4.02.77
6	坂本 剛	京都大	4.04.11

5000m

1	小山 俊之	京都大	15.08.32
2	宮野 健司	東京大	15.09.65
3	柿本 悠貴	京都大	15.16.06
4	酒井 健	大阪大	15.21.03
5	村西 健郎	名古屋大	15.24.43
6	西村 太志	大阪大	15.29.87

110mH (-0.7)

1	中尾 貴大	名古屋大	14.84
2	岩崎 辰哉	東北大	15.02
3	一ノ倉 聖	東北大	15.22
4	酒谷 彰一	東京大	15.24
5	増本健太郎	東京大	15.31
6	山内 一将	九州大	15.37

400mH

1	竹内 敦	北海道大	53.32
2	小間 洋和	大阪大	54.63
3	大橋 正義	京都大	55.36
4	赤木 裕	東京大	56.40
5	山内 一将	九州大	56.60
6	高木 海平	東京大	57.60

3000mSC

1	山根 裕樹	大阪大	9.21.59
2	青木 祐樹	東京大	9.28.13
3	飯塚 彬光	名古屋大	9.32.13
4	平岡 悠	名古屋大	9.32.26
5	尾形 翔平	東北大	9.37.29
6	不破 佑太	京都大	9.40.44

4×100mR

1	京都大	41.78
2	名古屋大	41.91
3	東京大	42.26
4	大阪大	42.32
5	東北大	42.40
6	九州大	42.68
7	北海道大	42.83

4×400mR

1	北海道大	3. 18. 93
2	東北大	3. 21. 72
3	東京大	3. 22. 50
4	大阪大	3. 22. 78
5	名古屋大	3. 22. 83
6	九州大	3. 23. 28

7 京都大 3. 23. 97

走高跳

1	滝川 憲	大阪大	1m95
2	竹内 将人	北海道大	1m95
3	筒井 保裕	大阪大	1m90
4	吉永 光宏	大阪大	1m90
5	藤田 光	北海道大	1m85
6	坂本 智	東京大	1m85

棒高跳

1	高橋 遼	大阪大	4m40
2	田中 皓介	京都大	4m30
3	小西 康晴	京都大	4m00
3	細田 真広	大阪大	4m00
5	関原 孝之	大阪大	3m40
5	藤井 翼	東北大	3m40

走幅跳

1	西村 優汰	京都大	7m45
2	西田 昂広	東京大	7m18
3	鈴木 一輝	東北大	7m00
4	岡崎 和貴	東北大	6m97
5	中野 翔	大阪大	6m96
6	木佐貫 翼	九州大	6m70

三段跳

1	村井 伸行	大阪大	15m09
2	勢力 薫	大阪大	15m03
3	中野 翔	大阪大	14m88
4	瀧澤 翔太	東北大	14m34
5	西田 昂広	東京大	14m26
6	松田 拓也	九州大	14m23

砲丸投

1	柳澤 邦彦	東北大	12m11
2	福井 康大	大阪大	11m65
3	池田 雄紀	大阪大	11m62
4	福井 大輝	名古屋大	11m22
5	鶴崎 晋也	大阪大	11m01
6	奥谷 啓太	名古屋大	10m73

円盤投

1	柳澤 邦彦	東北大	40m40
2	佐々木 駿	東京大	38m63
3	松尾 頼憲	名古屋大	33m98
4	矢川 勝太	京都大	33m97
5	佐田 純一	名古屋大	33m56
6	太田 祐輔	大阪大	32m26

ハンマー投

1	池田 雄紀	大阪大	45m50
2	太田 祐輔	大阪大	43m56
3	武藤 翔大	大阪大	43m20
4	千葉 伸宏	東京大	34m23
5	矢川 勝太	京都大	33m73
6	柳澤 邦彦	東北大	30m82

やり投

1	杉本 和志	東北大	64m72
2	林 翔太	京都大	57m88
3	杉 直晟	九州大	56m38
4	磯村 泰己	名古屋大	54m95
5	矢川 勝太	京都大	50m08
6	宮田 大輔	北海道大	50m03

七大会女子記録

100m (-0.9)

1	澤村真由子	大阪大	12.77
2	成瀬 葉香	名古屋大	12.80
3	牛山 綾	大阪大	12.93
4	加藤 紫帆	名古屋大	13.01

400m

1	牛山 綾	大阪大	60.08
2	山根 裕子	北海道大	60.99
3	岩橋 優	京都大	61.05
4	絹岡なずな	大阪大	62.03

800m

1	鈴木亜由子	名古屋大	2.15.06
2	岩橋 優	京都大	2.16.82
3	及川まりや	東北大	2.16.96
4	歌津 歩	大阪大	2.19.29

3000m

1	鈴木亜由子	名古屋大	9.39.11
2	安川 由紀	大阪大	9.59.21
3	高橋さやか	大阪大	10.17.21
4	那須 祐子	九州大	10.18.66

4×100mR

1	名古屋大	50.02
2	大阪大	50.39
3	北海道大	51.20
4	京都大	52.11
5	東京大	52.79
6	東北大	53.14
7	九州大	55.50

走高跳

1	平松 美咲	北海道大	1m51
2	木本 早苗	大阪大	1m51
3	丹家 里枝	東京大	1m48
4	湯澤 明夏	北海道大	1m48

走幅跳

1	高島 知充	北海道大	5m32
2	加藤 紫帆	名古屋大	5m24
3	高山 花子	東京大	5m13
4	野中 沙織	大阪大	5m04

砲丸投

1	小中真由美	名古屋大	10m90
2	河辺 梨央	大阪大	9m15
3	武田有希子	東京大	8m57
4	川守田 優	大阪大	7m88

七大戦オープン結果

▼100m

藤崎 淳	11.26	-0.2	PB
花岡 洋祐	11.38	+1.6	PB
水上 裕介	11.39	+0.1	
佐藤 翔士	11.43	+1.6	
森 裕貴	11.52	+1.4	
巽 浩之	11.56	+0.7	PB
秋山 源	11.71	-1.6	PB
天ヶ瀬 匡昭	11.76	+0.1	
神野 洋介	11.77	+0.3	
近藤 勇太	11.94	+0.3	PB
三浦 裕介	12.00	-1.6	
川室 太希	12.07	+1.5	
田中 皓介	12.36	-0.9	
林 真幸	12.51	-0.9	
平子 達也	12.64	-1.6	
櫻井 研吾	13.00	-1.6	
中桐 寛仁	14.05	+1.3	

▼400m

藤崎 淳	51.16
森 裕貴	51.47
堀江 一司	53.00
天ヶ瀬 匡昭	53.65
近藤 勇太	54.34
内田 健弥	54.43
鈴置 航央	54.56
平子 達也	55.28

▼1500m

櫻井 研吾	4.05.91	
西原 由高	4.06.13	
久好 哲郎	4.12.81	
横山 裕樹	4.13.11	PB
小山 裕之	4.16.10	
水谷 浩人	4.16.37	
河本 聡	4.20.88	PB
神埜 勝	4.22.35	
中桐 寛仁	4.22.41	PB
中東 太一	4.23.00	
志波 陽介	4.23.78	
野田 崇洋	4.26.44	
荒木 伸哉	4.26.44	
白石 晃将	4.27.77	
小野山 博之	4.29.15	
四辻 諒平	4.44.70	PB
山口 昌太	4.57.82	♪

▼5000m

近藤 学宏	15.18.30
櫻井 研吾	15.49.92
板垣 亮	17.06.41
鈴木 大河	20.15.68

▼5000mW

中村 幸平	24.00.86
永田 和寛	25.58.67
生谷 隆磨	26.45.65
西田 昌弘	28.18.34

▼4×400mR

佐藤翔-小野山-	3.33.85
平子-野田	
河本-四辻-	3.36.65
宿利-神埜	
宿院-小山裕-	3.39.54
上田-谷口	

▼走幅跳

巽 浩之	6.23	+0.8
------	------	------

▼やり投

宿院 享	38.19
櫻井 研吾	36.34

▽100m

山口 咲希	14.40	+1.4
中山 恵理	16.18	+1.4 PB

▽1500m

森山友紀子	5.31.28
-------	---------

▽5000m

三村 有葉	21.35.29	PB
-------	----------	----

記号の見方

▼：男子種目 ▽：女子種目

PB：自己新記録

CB：大学における新記録

♪：大学初レース

蒼穹新：蒼穹新記録

○数字は蒼穹ランク(20位まで)



蒼穹ニュース 平成22年度 第4号

平成22年8月9日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：飯村大智・高田裕人・藤澤健斗（副務）

特別協力：宿院 享・鈴木大河（学連員）

内田健弥（記録係）・秋元一志（HP係）

写真担当：河本聡・永田和寛・長谷川聡

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

ミラーサイト <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/>

陸上競技部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/caak/index.htm>

メールアドレス fujisawa0923@gmail.com（藤澤）